

2025/3/10

2026/09/14 修正

教則第 4 版移行に伴う追加問題

問題 281

目視飛行の範囲内に含まれる操縦方法として、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1) 操縦者が眼鏡を使用して無人航空機を操縦した
- 2) 操縦者がバッテリー残量を確認するため無人航空機から一時的に目を離し、モニターを確認した
- 3) 操縦者が双眼鏡を使用して無人航空機を操縦した

答え 3)

解説

操縦者は原則、直接目視によって無人航空機を操縦することが求められる。この際、眼鏡やコンタクトレンズの使用は「目視」に含まれる。また、安全な飛行を行うためにバッテリー残量を確認する目的等で無人航空機から一時的に目を離し、モニターを確認する等は目視飛行の範囲内となる。

問題 282

飛行許可・承認を取得した後に、飛行予定経路下にはおいて多数の者が集合する催しが開催されることが判明し、飛行場所に第三者の立ち入りの恐れがあることが確認された。この時の処置として正しいものを一つ選びなさい。

- 1) 無人航空機の飛行を中止する
- 2) 飛行許可を取得していることから問題ない。予定通り無人航空機を飛行させる
- 3) 複数人の補助者を配置し、慎重に無人航空機を飛行させる

答え 1)

解説

第三者の立ち入りの可能性が生じたことより、いくら事前に飛行許可・承認を取得していたとしても中止にすべきケースである。

問題 283

催し場所上空の事例として該当するもの・該当しないものとして正しいものを一つ選びなさい。

- 1) 催し場所上空の事例として該当するものとして信号待ち上空
- 2) 催し場所上空の事例として該当しないものとして関係者のみが参加する催し場所上空
- 3) 催し場所上空の事例として該当するものとして屋内で開催されるコンサート

答え 2)

解説

信号待ち上空は自然発生的なものに限り、該当しない例として判断される。

また、屋内で開催されるコンサートは屋内という点から航空法によらないことから該当しない例として判断される。

関係者のみが参加する催し場所上空は、第三者が居ないことから、該当しない例として判断される。

問題 284

無人航空機からの物件投下事例として判断されるものとして、正しいものを一つ選びなさい。

- 1) エアゾルとしての農薬を散布する
- 2) 無人航空機がホバリング状態のままで、物件を地表面に落下させることなく地上員に受け渡す
- 3) 物件を地表面に置く

答え 1)

解説

物件投下には、液体のみならず霧状のものの散布も含まれる。

また、物件を落下させることなく地上員に受け渡したり、物件を地表面に置いたりする行為は、物件投下には含まれない。

問題 285

捜索または救助のための特例に含まれるものとして、誤っているものを一つ選びなさい。なお、いずれの場合も地方公共団体からの依頼に基づくものとする。

- 1) 災害により孤立した集落への生活必需品の輸送
- 2) 危険を伴う橋梁下など狭小空間における飛行点検
- 3) 被災地における住民避難後の住宅地域の防犯対策のための無人航空機による巡回飛行

答え 2)

解説

「搜索又は救助のための特例」とは、事故や災害の発生等に際して人命や財産に急迫した危難のおそれがある場合において、人命の危機又は財産の損傷を回避するための措置を指している。このことから、被災地への物資輸送や防犯対策としての巡回飛行は問題ない。

問題 286

第三者には該当しない間接関与者の定義として誤っているものを一つ選びなさい。

- 1) 無人航空機の操縦はしていないが操縦する可能性のあるもの、安全確保に必要となる補助者
- 2) 無人航空機の計画外の挙動を示した場合に従うべき明確な指示と安全上の注意を受けているもの。
- 3) 映画の空撮における通行人役をつとめる一時的なエキストラで、無人航空機の飛行目的の全部ではなく一部に関与するもの

答え 1)

解説

無人航空機の操縦はしていないが操縦する可能性のあるもの、あるいは安全確保に必要となる補助者は、操縦者と同様、直接関与者として分類される。

無人航空機の計画外の挙動を示した場合に従うべき明確な指示と安全上の注意を受けているもの、そして映画の空撮における通行人役をつとめる一時的なエキストラで、無人航空機の飛行目的の全部ではなく一部に関与するものは、間接関与者として定義・分類される。

問題 287

第三者の上空の定義として正しいものを一つ選びなさい。

- 1) 第三者の上空とは、第三者の直上に限定される。
- 2) 第三者がヘルメットを装着しており、無人航空機の衝突から一定の安全が担保できる場合、第三者の上空とみなされる。
- 3) 第三者が屋内におり、無人航空機が衝突した場合に保護される状況にある場合、第三者の上空とみなされない。

答え) 3)

解説

無人航空機が第三者の直上だけでなく、落下する可能性のある領域も含めて第三者の上空と定義される。

また、第三者が遮蔽物に覆われており、無人航空機が衝突した際に第三者が保護される場合には第三者の上空とはみなされない。ヘルメットでは保護される個所が身体の一部であり不十分と考えられることから、第三者の上空とみなされる。

問題 288

レベル 3.5 飛行の概要として誤っているものを一つ選びなさい。

- 1) 山、海水域、河川・湖沼、森林、農用地等の人口密度が低く、第三者が存在する可能性が低い場所が飛行空域となるが、第三者を完全には排除できないことから歩行者の上空の飛行はごく短時間に限り認められている。
- 2) 飛行経路を特定したうえで、飛行経路下に歩行者等がない無人地帯であることを機上カメラによって確認することで立入管理措置を代替し、カテゴリーⅡ飛行（レベル3飛行）に該当する。
- 3) 立入管理措置のうち補助者の配置や看板の設置等を機上カメラでの確認に代替するものであり、立入管理措置そのものが不要となるわけではない。

答え 1)

解説

レベル3.5飛行は、一定の要件を満たすことで一時的な道路等の横断に限って移動中の車両等の上空を飛行することを可能とするものであり、カテゴリーⅢ（レベル4）飛行と同様に歩行者等の第三者の上空の飛行を認めるものではない。

問題 289

航空法の規定に違反した場合の罰則および行政処分について、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1) 航空法に違反した場合、罰則または行政処分のどちらか重い方が課される。
- 2) 無人航空機操縦者技能証明に係る行政処分に関する基準では点数制を採用しており、行政処分及び行政指導の内容は、「点数表」に掲げる処分事由に対応する点数を基本として、個別事情や過去に処分を受けているかの有無を勘案し、点数の加重又は軽減を行い、当該処分事由についての点数を決定したうえで、「処分等区分表」によって決定される。
- 3) 無人航空機操縦者技能証明に係る行政処分において一番重い処分内容は、技能証明の効力の取り消しである。

答え 1)

解説

航空法令の規定に違反した際、技能証明を有する者である場合、罰則に加えて技能証明の取消

し等の行政処分の対象にもなる可能性がある。

問題 290

リチウムポリマーバッテリーの特徴と注意点について、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1) メモリ効果とは、継ぎ足し充電などで浅い充放電を行った場合に見かけの放電容量が減少する現象のことである。リチウムポリマーバッテリーでは、このメモリ効果が大きい。
- 2) 満充電のリチウムポリマーバッテリーを使用して無人航空機を急上昇させた場合、直後にバッテリー残量が減った様に見えることがある。これはバッテリーから大きな電流が流れたことで一時的な電圧低下が引き起こされた結果である。一時的なもので、数分経てば正しい値を示す。
- 3) バッテリーが短絡した場合、発火する可能性がある。

答え 1)

解説

リチウムポリマーバッテリーではメモリ効果が小さい特徴がある。メモリ効果の説明は問題ない。

以上